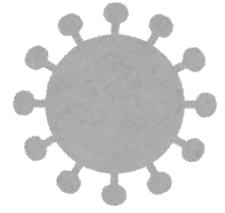


新型コロナ感染症を振り返る 2023.3



新型コロナ感染症（COVID-19 感染症）の患者が日本で初めて発見されたのは 2020 年 1 月のことで、中国武漢市から帰国した発熱患者でした。その後患者数は増減の波を繰り返し本年 1 月には 8 波を迎えています。患者数は最も多い 7 波に次ぐ数（総数の報告がされていない）ですが、一日の死亡者は 500 人近くで 8 波が最も多くなっています。

死亡者のほとんどが基礎疾患のある高齢者です。基礎疾患には慢性閉そく性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙などがあります。高齢者ほど死亡率が高く、無症状によるウイルスの持ち込みで、高齢者入所施設でのクラスター発生も大きく影響しています。コロナ感染蔓延期には感染を恐れた受診控えや健康増進活動を控えることによる慢性疾患の悪化、免疫力の低下なども死亡原因に関係しているとされています。ワクチン接種については、重症化予防効果が期待されています。

下呂市立金山病院では感染予防に努めてきましたが、2022 年 12 月職員を含めたクラスターを生じ、これは幸いにも抑え込むことが出来ました。また感染患者の入院に際しては、感染対策のため多くの人員を必要としますが、地方病院でのマンパワー不足は金山病院でも深刻な状態となっています。現在は入院が必要な新型コロナ感染患者は、対応可能な医療機関に転送し、コロナ以外の患者を当院が受け持つという病病連携体制をとっています。

エアロゾルなどによる空気感染の究極の予防策は感染者の呼気を吸わないことですが、コロナに感染すると多かれ少なかれ症状で苦しみ、後遺症でも悩まされることとなります。また完全な治療薬はなく、検査方法についても使い勝手の良い制度にはなっていません。これらのまだ解決困難な問題を残す中、マスクの着用が話題になっています。

マスクの必要性については、まず病原体（ウイルス）の性質の理解が必要です。ウイルスは生きた細胞の中でのみ増えていきます。当然のことながらウイルスはそれを持っている人から排出され、飛沫、エアロゾルとなって周囲に拡散されます。空気の流れに乗るなどして他の部屋にも拡散される可能性があるでしょう。

マスクは飛沫が拡散し他人が感染することをある程度予防（咳エチケットと同等）する効果が期待されます。マスクを着用した集団は着用していない集団よりも感染率が低いことは確認されています。しかしマスクは空気中に飛散しているエアロゾルを吸い込むことを完全には予防できず、換気等、三密に対する予防策を併用する事が必要です。エアロゾルや飛沫核の形で感染力を持って空中を漂い空気感染をきたす病原体には結核や水痘、麻疹などがあり、新型コロナ感染症についてもその可能性が議論されています。

マスクは感染予防（他人への感染予防）のために着用するものです。国は 3 月 13 日以降、マスク着用に関して見直しを示されていますが、感染症の実態を理解し、自身の感染の有無を確認し、自分を守り他人を守るために、自分自身で適切な着用を心掛ける必要があるかと思えます。